

働き方改革推進方針における各成果指標の状況

↗ 改善 ↘ 悪化

成果指標	R2	R3	R4	R5	R6	R7	状況
1. 時間外勤務月80時間超の 県立学校教師(教諭)の割合 (年間平均) ※システムによる把握	15.9%	16.8% ↘	18.1% ↘	16.3% ↗	14.9% ↗	—	時間外勤務時間月80時間超の教師の割合は、令和4年度を境に着実に減少 ※R2は新型コロナウイルスによる学校の一斉休業の影響で時間外勤務が少ない
2. 教師自身の学びの実践 (9項目の学びの実践の選択数)	3.13項目	3.42項目 ↗	3.54項目 ↗	3.51項目 ↘	3.48項目 ↘	3.44項目 ↘	令和2年度はコロナ禍による研修の中止等の影響で全体の選択数が大きく減少したが、令和3年度以降は概ね元の水準に回復
3. 教職員の働きがい (ワーク・エンゲイジメント) ※9項目(各0～6点)の合計点	28.35点	28.64点 ↗	28.26点 ↘	27.66点 ↘	27.52点 ↘	27.95点 ↗	日本(民間企業)の平均(23.58点(※1))以上の水準をキープしており、令和7年度はやや改善傾向
4. 教職員の抑うつ傾向 (メンタルヘルス) ※6項目(各0～4点)の合計点	5.57点	5.62点 ↘	5.79点 ↘	5.80点 ↘	5.89点 ↘	5.63点 ↗	平均値がリスク群に達しているが、令和7年度はやや改善傾向(※2) ※5点以上がリスク群、 10点以上がハイリスク群
5. 教職員の主観的幸福感 (ワーク・ライフ・バランス) ※10点満点	6.06点	6.09点 ↗	6.05点 ↘	5.99点 ↘	5.97点 ↘	6.11点 ↗	日本の平均(5.76点(※3))以上の水準をキープ

※1:リクルートマネジメントソリューションズ(2019)「ワーク・エンゲイジメントに関する実態調査(N=624)」で平均値23.58点
質問は、「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」等9項目について、どのくらいの頻度で感じているか、
「0:全くない～6:いつも感じる」の7段階で問うもの

※2:質問は、過去1カ月のこころの状態(6項目)を「0:全くない～4:いつも」の5段階で問うもの

※3:内閣府(2022)「満足度・生活の質に関する調査報告書」で平均値5.76点
質問は、直近1カ月の状況を「0:最高に不幸～10:最高に幸福」までの11段階で問うもの